



「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」

今年度の校内研究について

研究主題（R6・7年度） 「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」

■ 設定の理由

①今年度のやまびこ支援学校教育計画より

「（１）基礎的・基本的な知識及び技能の習得と情報活用能力の育成」について校長より「情報活用能力」についての話

これまでの本校での３つの柱での授業づくりとその評価についての実践の積み重ね

②国の動向や時代の流れより

学習指導要領に、「教科を超えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」と明記「言語能力」と同様に掲げられている

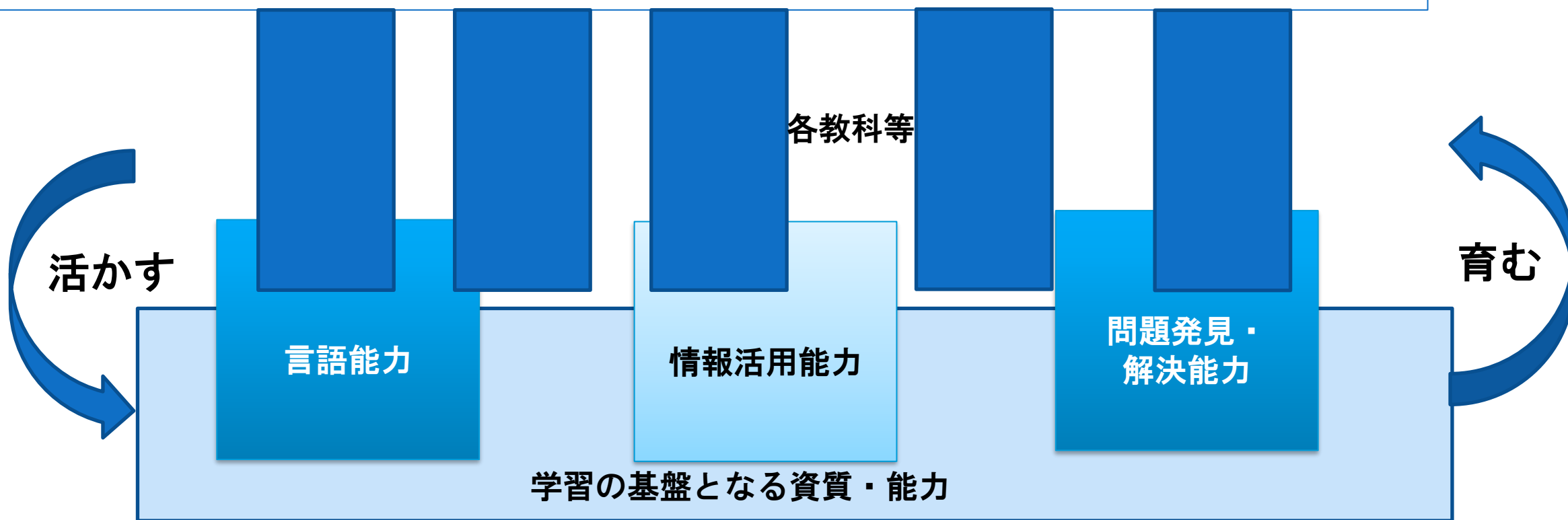


「情報活用能力」の捉え方について周知する
ICT利用のみにとどまらない「情報活用能力」

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
設定の理由

①今年度のやまびこ支援学校教育計画より

「（１）基礎的・基本的な知識及び技能の習得と情報活用能力の育成」について



研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
設定の理由

①今年度のやまびこ支援学校教育計画より

「（１）基礎的・基本的な知識及び技能の習得と情報活用能力の育成」について

これから
必要なこと

情報活用能力の育成

これまでに
できていること

育成を目指す資質能力の3つの柱にて単元計画、
三観点の学習評価

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
研究目標

明らかにしたい
成果を2年計画でじっくり時間を
かけてまとめていきたい

これから
必要なこと

情報活用能力の育成

これまでに
できていること

育成を目指す資質能力の3つの柱にて単元計画、
三観点の学習評価

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
研究目標

これまでの
授業実践
の
蓄積



ICT利活用
に
限らない
「情報」
の活用



ねらいを
達成する
ための
学習効果
の最大化

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
研究組織

小学部

A組
（重複
グループ）

寄宿舎

中学部

高等部

研究主題（R6・7年度） 「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」

これまでの本校における実践
教務部の計画の元指導主事招聘の「ICT授業研究会」を年1回行っている。



確認されてきたこと

- アセスメントと目標設定→ねらいを達成するための手段として
- 具体的な例示による手がかりを伝えていく
- 実体験を組むこむべき教科についてICT活用も有効

研究主題（R6・7年度）

「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」

研究方法

資料1

ICT活用能力実態チェックシート（第3版）

山梨県教育委員会 特別支援教育・児童生徒支援課
令和4年4月初版（試行版） 令和5年3月第2版 令和6年〇月第3版

分類		0	1・2・3（必要に応じて各校で設定）	4（小低）	5（小低）	6（小中）	7（小中）	8（小高）	9（中）	10（高）	想定される学習内容
A 知識及び技能	（1）情報技術に関する技能	①入力等	・画像をもって、画面に注目する。 ・画面にタッチしスワイプできる。 ・タッチペンを使用して画面を操作する。 ・1画面に情報を連続して、操作できる。 ・自分で使用端末を操作する。 ・検索方法が選択できる。	コンピュータの起動や終了ができる。1画面のスライドの入力ができる。（小低）	コンピュータを使って写真や動画の撮影、音声の記録、録音ができる。（小低）	自分にあった入力方法に慣れ、コピー・貼り付けなどの操作ができる。（小中）	写真や動画などの貼り取り・コピー・貼り付けなどの操作ができる。（小中）	自分に合った入力方法で、文書を入力できる。（小高） 文書や画像などの貼り取り・コピー・貼り付けなどの操作ができる。（小高）	自分に合った入力方法で、十分な速さで正確な文字入力ができる。（中） （目安：80文字以上/分） 文書作成ソフトによるパンフレット等の作成ができる。（中）	効率を考えた情報の入力ができる。（高） （目安：80文字以上/分） 文書作成ソフトによるパンフレット等の作成がスムーズにできる。（高）	基本的な操作等
		②ファイル管理	教師の補助を受けながら、電子ファイルの呼び出し、保存ができる。	電子ファイルの呼び出し、保存がスムーズにできる。（小低）	電子ファイルの機能（写真など）がわかる。（小低）	電子ファイルの検索ができる。（小中）	電子ファイルのデータの大きさがわかる。（小中）	電子ファイル・フォルダの機能（複製、コピー）による特定のデータの選択、移動、コピー、削除など。（小高）	電子ファイルの活用ができる（複製、コピー）による特定のデータの選択、移動、コピー、削除など。（中）	電子ファイルの適切な活用ができる。（クラウドの活用や権限の設定など）（高）	
		③アプリケーションの利用	教師の補助を受けながら、アプリケーションを操作することができる。自分の目的にふさわしいアプリケーションがある。	（イベント系）アプリケーションを選択・操作ができる。（小低）	学習支援アプリを選択・操作できる。（小低）	オフィス系アプリの選択・操作ができる。（小中）	検索・編集・アプリケーションの選択・操作ができる。（小中）	目的に応じてアプリケーションの選択・操作ができる。（小高）	目的に応じて適切なアプリケーションを選択・操作することができる。（中）	目的に応じてアプリケーションを選択・操作し、活用できる。（高）	
		④情報検索	教師の補助を受けながら、インターネットを利用して検索できる。検索したい情報があり伝えることができる。	インターネット、検索アプリがわかる。（小低）	インターネット上の情報の閲覧ができる。（小低）	インターネット上の情報の閲覧やキーワード検索ができる。（小中）	知りたい情報（キーワード）の検索について検索できる。（小中）	AD、URLなどの検索履歴を自分で検索できる。（小高）	目的に応じて適切に検索できる。（中） クラウドを用いた検索作業がわかる。（中）	目的に応じて適切に検索し、クラウドを用いた検索作業がわかる。（高）	
		⑤情報・情報技術の特性と理解	自分の使用するコンピュータ（GIGA端末）がわかる。	GIGA端末を含めたコンピュータの存在を知っている。（小低）	コンピュータ（GIGA端末、タブレット）がインターネットにつながっていることを知っている。（小低）	学校生活におけるコンピュータの活用について理解できる。（小中）	家庭生活におけるコンピュータの活用について理解できる。（小中）	社会におけるコンピュータの活用について理解できる。（小高）	社会におけるコンピュータやクラウドなどの検索履歴やネットワークの活用について理解ができる。（中）	社会におけるコンピュータやクラウドなどの検索履歴やネットワークの活用についての科学的な理解ができる。（高）	
		⑥記号の組み合わせの理解	文章について、「最初～、次に～、最後に～」などの言葉を用いて、説明することができる。	文章の分解と組み合わせができる。（小低）	順番を指示し、ごく簡単なプログラムを作成できる。（小中）	指示（フローチャートなど）による単純な手順（アルゴリズム）の表現ができる。（小中）	簡単な繰り返し、条件分岐、データの処理などを含んだプログラムの制作ができる。（小高）	課題を見、解決のための安全な適切なプログラムを制作、動作確認及びデバッグ等ができる。（中）	課題を見、解決のための安全な適切なプログラムを制作、動作確認及びデバッグ等ができる。（中）	課題を見、解決のための安全な適切なプログラムを制作、動作確認及びデバッグ等ができる。（高）	問題解決・探究における情報活用
	（2）情報活用方法の探究に理解できる	①情報収集	身近な物事に関心を持つことができる。身近なところから様々な情報を収集しようとする。教師の補助を得ながら、情報を収集することができる。	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（小低）	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（小低）	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（小中）	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（小中）	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（小高）	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（中）	メディアの情報は、伝えたいことを知ることができる。（高）	
		②整理・分析・表現	簡単な絵や図の数を数えることができる。簡単な絵や図を比較し、同じか、異なるかを判断することができる。	情報をとおまかに見ることが出来る。（小低）	簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。（小低）	簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。（小中）	簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。（小中）	簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。（小高）	簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。（中）	簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて情報を整理することができる。（高）	
		③発信	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	相手に伝えたい内容をもち、	

山梨県
特別支援教育における
「ICT活用能力実態
チェックシート
（令和6年第3版）」

情報モラル
セキュリティ

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
研究方法

これまでの
授業実践
の
蓄積

ICT利活用
に
× 限らない
「情報」
の活用
＝

ねらいを
達成する
ための
学習効果
の最大化

ICT活用から情報活用能力育成へと視点をシフトチェンジ

研究主題（R6・7年度）

「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」

小学部 研究実践

「小学部段階における情報活用能力とは何か」「その指導の際に大切にしたいことは何か」を考えてきた。

- ・ 情報活用能力をとらえていく中で低学年と高学年の違いが顕著に出た。
- ・ 指導上大切にしたいことが①環境設定をすること（情報を得たり、発信したりしやすい環境を意図的に設定する）、②得た情報を伝える場面をつくること、言葉の力をつけること（語彙を増やす等）、③体験や経験を大切にすること（それを伴った身のある言葉をもつこと）、④興味のあることを入り口に、やりとりを広げていくこと（人との関わりの基盤づくり）の4点であること

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
中学部 研究実践

情報機器をどのように活用すると課題としている個の目標に迫っていきけるのかについて考えてきた

- ・特に「自分の知識（言語）を使い、他者へ発信する力」について成長が見られた。
- ・情報機器のみではなく身振り、筆談などの発信方法を教師とのやり取りの中で使いながらその良さ（より伝わりやすいと感じる）を知ることによって様々な方法で伝えようとする様子が見られ始めている。
- ・「発信方法の選択肢を設定すること」さらに「発信する場面に応じ臨機応変に発信方法を選び、使っていく力を生徒につけさせること」が必要。

研究主題（R6・7年度）
「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
高等部 研究実践

本校卒業までのどのような情報活用能力を身につけておく必要があるか検討・整理を行った。

- ・ 取り組みの中で情報の受け取り方や情報を相手に伝える方法についてそれぞれグループの実態に応じた支援や手立てを検討することができた。
- ・ どのような手立てで学習を進めることで身につけさせたい情報活用能力の育成を図ることができるかについて、社会／自立活動の学習で有効な手立てを検討することができた。
- ・ どの実態の生徒についても、学習の中では特に情報をどのように受け取るか、相手に伝えるかの力が重要であることが各グループで検討。生徒の情報活用能力の実態について、丁寧に読み取ることとともに、実態に応じた適切な手立てを設定する必要性についての確認。

研究主題（R6・7年度）

「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」

寄宿舍 研究実践

「余暇の充実」について情報活用能力を生かした寄宿舍生活を過ごしていけるように考えていった。

- ・ 情報活用実践シートを通して様々な場面で情報活用能力（基本的な操作・情報モラル・情報セキュリティ・収集・整理・保存・発信・伝達・共有・比較・プログラミング・統計）が複雑に関係し合っていることが分かった。

- ・ 情報活用の幅が広く、情報活用能力が関連し合っていることから難しさを感じたが、各実践で関係する情報活用能力と、育みたい情報活用能力を明記してどこに注目するのかポイントを絞って取り組んだことで指導員の情報を活用することに対する意識が高まり、どの情報活用能力に対してどのようにアプローチするのかを見失わずに指導することができた。

- ・ 指導員間で何をねらうのか、どのような支援や手立てを行うかを共通確認しながら丁寧に指導を行うことができた。

研究主題（R6・7年度）

「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
研究 成果

体験的な
学習の
重要性

どの情報
活用能力を
身につけさ
せるか
見極めてい
くこと

「情報」とは
学習環境すべ
てから得られ
るものであり、
意図した環境
設定が重要

研究主題（R6・7年度）

「情報活用能力の育成を目指した授業づくり」
研究 課題

情報活用能力を含めた
丁寧な実態把握

実践についての
見取りの評価